

## 図1 A酪農家の現状(平成29年11月末日現在)

- 飼養者: 畜主、両親の3名
- 飼養頭数: 搾乳牛20頭 育成牛4頭
- 飼養形態: タイストール(バーンクリーナーなし)、  
バケットミルクカー、分離給与
- 「昔ながら」の管理例
  - ・配合飼料主体の飼料給与
  - ・稲わらの給与
  - ・過搾乳⇒絞りきらないといけない
  - ・乳房の清拭(正しくない乳頭清拭)
  - ・期間をかけての乾乳(急速乾乳でない)etc

## 図2 問題点

### ①環境・搾乳衛生

時期	問題点
常時	ません棒が固定されていない ⇒乳房、乳頭が飼料、敷料、糞尿で汚染
	搾乳手技に起因する乳房炎の多発 ⇒乳房炎罹患牛(大腸菌性除く)20頭中菌分離1頭(H28,29)
H28.6~7	環境性甚急性乳房炎の発生(3頭廃用) ⇒乳汁よりベロ毒素産生大腸菌(VTEC)を検出
H28.7.13	牛床・敷料のおが粉検査 ⇒大腸菌群を検出
H28.7.26	搾乳方法の確認 ⇒不適切な乳頭清拭・過搾乳・不完全なスプレーディッピング

環境・搾乳衛生に起因する乳房炎の発生が多い

## 図3 ②搾乳牛の給与飼料

○分離給与飼料 粗濃比37:63 粗蛋白充足率120%

→バルク乳検査における乳脂肪

H27 3.66% H26 3.53% H25 3.42%

→粗飼料不足、タンパク過多が疑われる

乳脂肪が低く、内科疾病の多発

## 図4 ③乾乳・育成牛の給与飼料

○乾乳前期とクローズアップ期で飼料の変更はなし

○粗濃比37:63、乾物充足率70%、粗蛋白充足率139%

→著しい粗飼料、乾物不足、タンパク過多

難産・周産期疾病の多発

## 図5 ④経営状況

○平成27年度畜産経営指導事業総合支援指導

年間労働時間3,668時間

1日あたり労働時間24時間(3人合計)

→比較:平成26年度都府県20~30頭飼養農家

約10時間⇒約2.4倍の労働時間

○労働費 6,988千円

經常所得 1,919千円 經常利益 -4,569千円

労働時間長く、収益・今後の労働力に不安

# 図6 対策と結果

理解させることを第一に

## ①環境・搾乳衛生

○継時的に敷料中の大腸菌を検査し、写真で理解させる

	問題点	提案	実施
環境	牛床	ません棒の固定 飼槽と牛床の区切り	×
	敷料	おが粉へ3%石灰混入 →環境資材の使用	○ →× →○
搾乳衛生	不適切な 乳頭清拭	乳頭のみ清拭	×
	過搾乳	マシンストリップング の中止	×
	不完全な ディッピング	スプレー →浸漬型 →コート剤	○

H28.6  
環境性甚急性乳房炎発生  
(3頭廃用)

H28.8  
おが粉への3%石灰混入  
⇒環境性甚急性乳房炎の  
発生おさまる

H29.1  
おが粉への石灰混入中断

H29.10  
環境性甚急性乳房炎発生  
(2頭死廃)

H29.12  
石灰に代わる環境資材の  
使用を開始

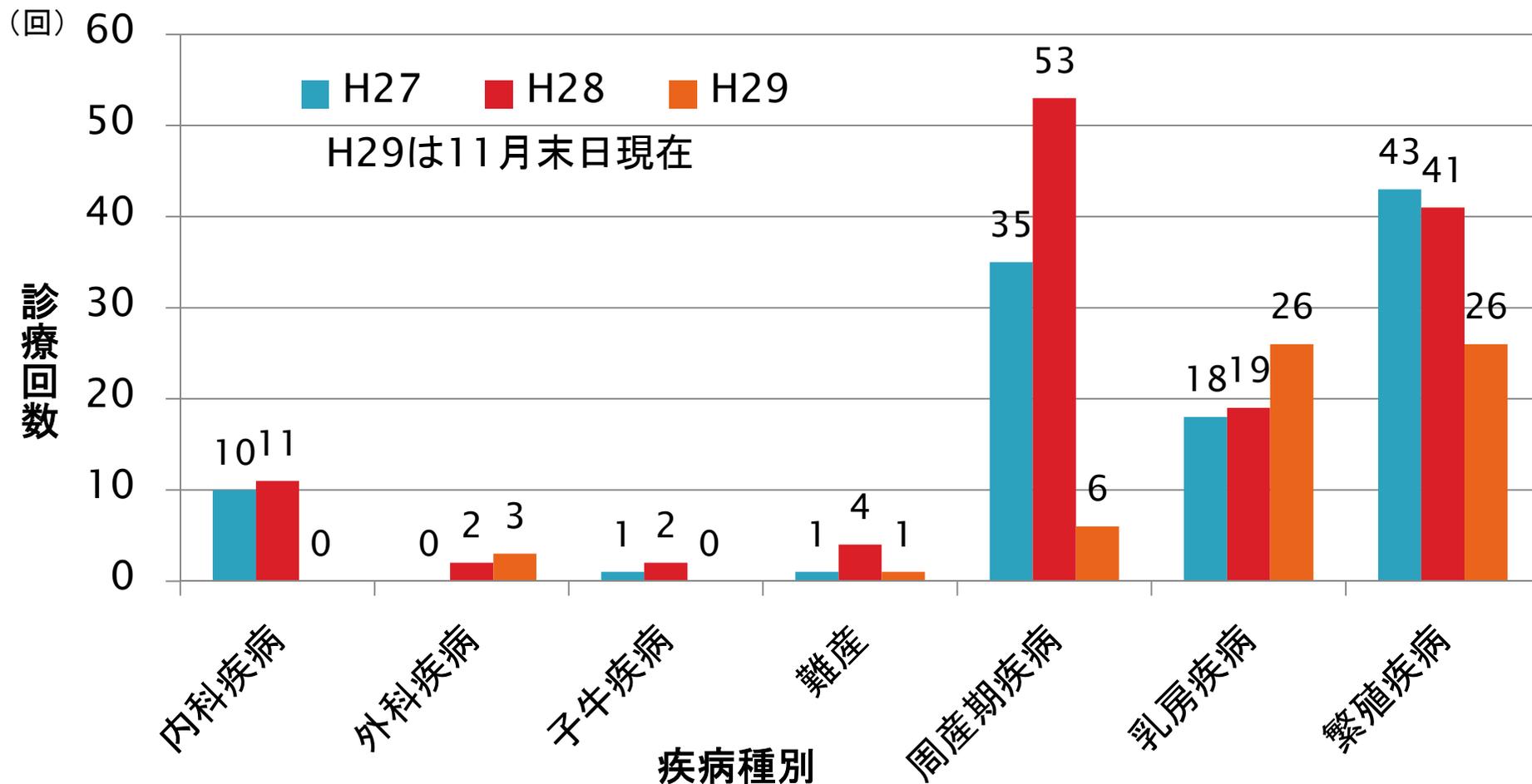
## 図7 ②搾乳牛の給与飼料

○現飼料の問題点を日本飼養標準の充足率、バルク乳  
検査結果で理解させる

	問題点	提案	実施
搾乳牛の 飼料	給与飼料量が不明	畜主と飼料の計量	○
	不適切な飼料給与	飼料の種類の変更	×
		給与回数が増	×
		給与配分の変更	○

○飼料の種類、給与回数は変えずに飼料設計を変更  
**粗濃比44:56**に改善した設計を提案(H28.10)

# 表1 各種疾病診療回数の推移



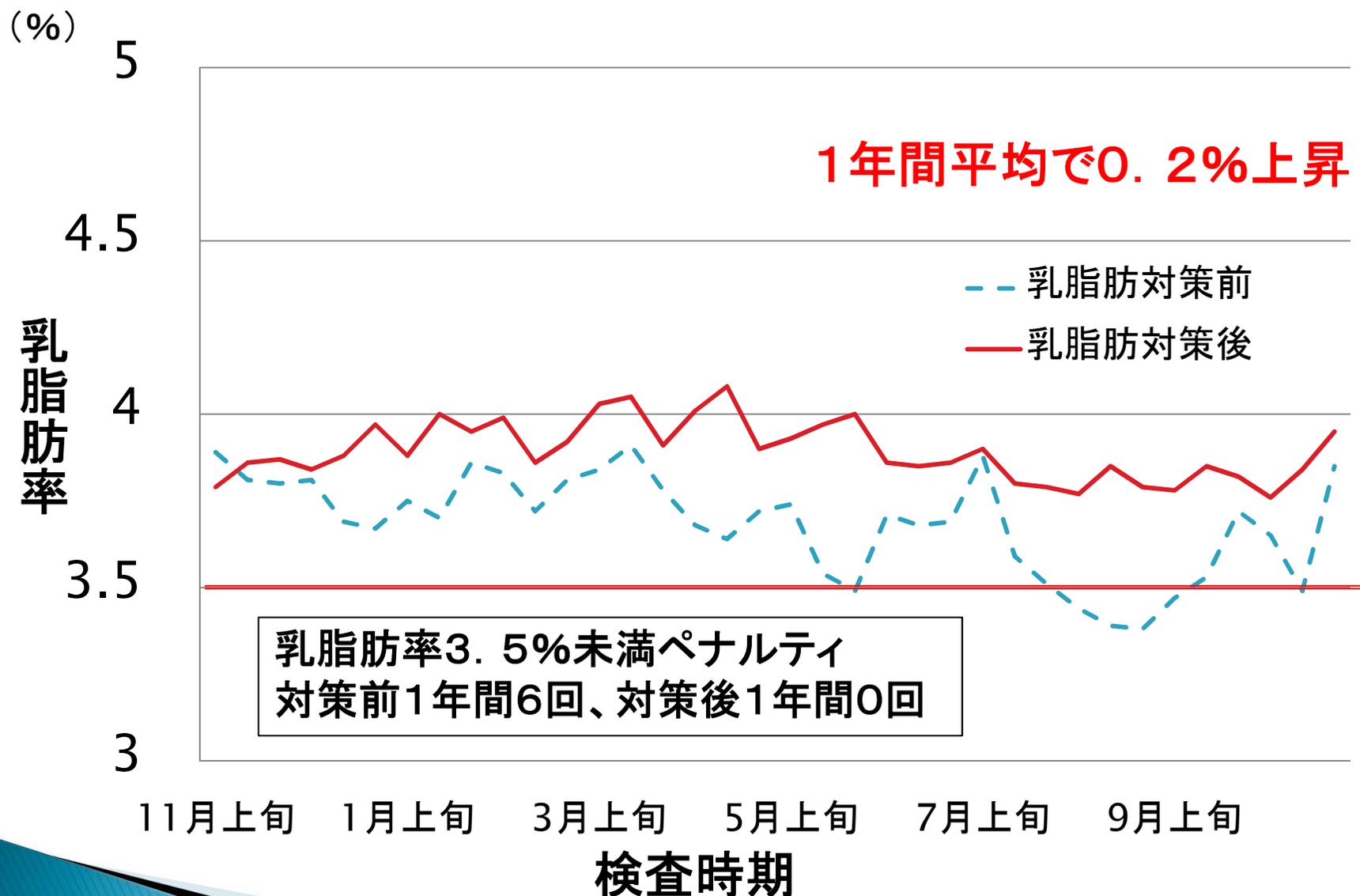
共済診療＋現金診療金額（初診料、診断書代除く）

H27 578,130円＋ 3,730円＝581,860円（H27.2.14～H28.2.13）

H28 618,490円＋98,400円＝716,890円（H28.2.14～H29.2.13）

H29 332,950円＋ 7,390円＝340,340円（H29.2.14～H29.11.30）

# 表2 バルク乳検査における乳脂肪率の推移



\* 近畿生乳販売農業協同組合連合会生乳検査所データ

## 図8 ③乾乳・育成牛の給与飼料

- 乾乳期の重要性について理解させる
- 育成期の重要性について理解させる

	問題点	提案	実施
乾乳・ 育成牛の 飼料	不適切な給与飼料	新たな飼料設計	○
	乾乳前期とクローズアップ期の飼料変更	新たな飼料設計	○
	乾乳期のモニタリング	乾乳期のBCS測定	○
		血液プロファイルの実施	○

日本飼養標準に基づき設計した飼料給与を提案

# 表3 BCS、血液プロファイルの結果

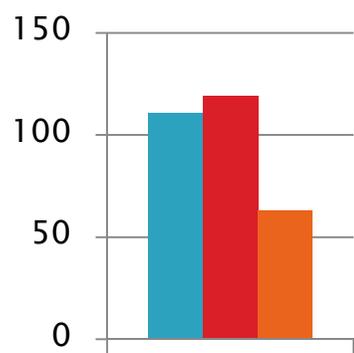
○BCSの状態(優良牛群3.25)

H29 乾乳前期2.25~2.75 分娩前2.25~2.75

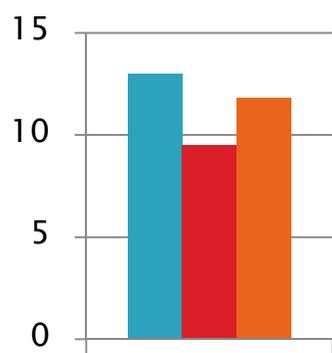
→乾乳前からやせ気味

→**乾乳期を通じて変化はなし**

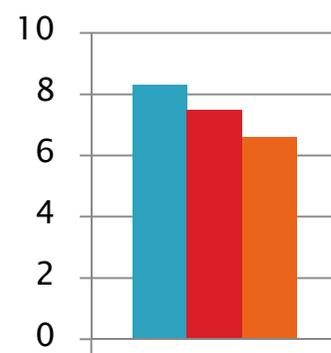
○血液プロファイル検査



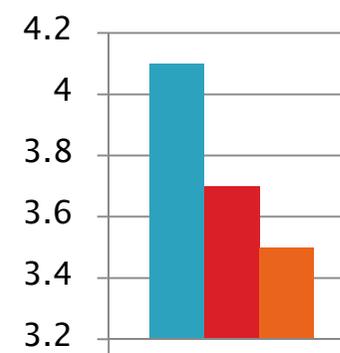
T-Cho



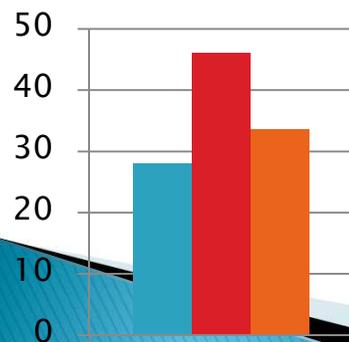
BUN



T-Pro



Alb



GGT

■ 優良牛群  
■ H29 (乾乳前期)  
■ H29 (分娩前)

モニタリングを行うことで農家の意欲も向上

\* 優良牛群データは生産獣医療システムより

## 図9 ④経営状況

	問題点	提案	実施
経営改善	労働時間の低減	施設整備	○
	子牛販売収入の増加	H、F1子牛の市場出荷	×
		黒毛和種受精卵移植の実施	○

○パイプラインミルクカーの導入

○育成牛への黒毛和種受精卵移植の実施

受胎率56%(5/9、6頭中5頭受胎)、3頭分娩済

○子牛市場出荷のため、熊野牛産地化推進協議会へ

加入 → 繁殖農家との交流が始まる